

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790900013	
法人名	医療法人 光麗会	
事業所名	認知症高齢者グループホーム 森の都	
所在地	相馬市柚木字大関64-17	
自己評価作成日	平成24年11月23日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成24年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな、また介護老人保健施設と併設してあるという環境的要因を活かして行事などを企画、提供しています。また、グループホームの「家庭的」、ご利用者と職員の「協働」生活という要素を意識して、日々の支援に努めています。
 体調管理面では、正看護師2名を配置して、主治医と連携しながら介護職とも情報を共有し合い、ご利用者に安心して生活いただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入浴時間をそれまでの午前から夕方ないし夕食後に変更するなど、職員が利用者の希望に添ってサービスの提供を替えて要望に応えるなど、事業所の基本理念でもある利用者本位のサービス提供を着実に実践している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝、基本理念と運営理念を読み合わせして、一日の業務に反映できるよう取り組んでいる。</p>	<p>毎朝9時の申し送りの後に基本理念と運営理念を読み合わせ共有化に努めている。また、日々のサービスの中で問題発生した場合には利用者本位に基づいて対応することで理念の実践に繋げている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>老人会や公民館、その他市民の方々のご理解とご協力を賜り、交流会への参加や行事企画、慰問の受入などを行っている。</p>	<p>公民館での3世代交流会に参加したり、地域市民からの慰問支援や夏祭りでの交流など様々なレベルで地域交流を実施し、密度を深めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設に来所していただくこと他、交流会などの場でもご相談に対して、積極的に対応している。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の内容については、職員会議にて周知し、更なるサービス向上に努めている。今年度は地域包括支援センターからも委員として参画いただいている。</p>	<p>事業所からの一方的な報告でなく、人材不足など事業所が抱える諸問題について家族委員や地域包括支援センター委員から質問が出るなど、話し合いを積極的に行い、利用者へのサービス向上に繋げている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて、市役所の担当部署に相談等させていただいている。また、運営推進会議でも現状等を報告し、常に運営状況等を把握していただけるよう努めている。</p>	<p>月に1～2回は市役所の担当職員と事業所の抱える問題について協議するなど市との良好な連携構築に取り組んでいる。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>併設する介護老人保健施設とも協力し、委員選出のうち、委員会活動に参画している。またその内容を施設内にて周知している。その他勉強会について開催、参加している。</p>	<p>帰宅願望者が入所している場合には見守りを強化し、不穏な状況下では施錠することもあるが、併設する介護老人保健施設の身体拘束をしない委員会活動に今年から参加して、身体拘束をしないケアの向上に取り組んでいる。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>併設する介護老人保健施設とも協力し、委員選出のうち、委員会活動に参画している。またその内容を施設内にて周知している。その他勉強会について開催、参加している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を実施。また、市の担当部署とも連携をとり、必要時は速やかに対応できる体制づくりをしている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>親切かつ丁寧な説明に努め、同意をいただいている。また、不安や疑問等に対しては迅速な解決を心掛け、安心してご利用いただけるよう努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各棟に意見箱を設置し、随時ご意見をいただける体制にしてある。そして、それらを必要に応じて会議の議案として取り上げ、解決するなど努めている。</p>	<p>利用者家族とは月1回の話し合いの中で意見や要望などの聞き取りを行っている。そこで出た要望には誠実に対応するなど家族などの意見を運営に反映させている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎週の会議にて、職員の意見や提案等を取り上げ、それについて法人全体として取り組める機会を設定している。</p>	<p>毎週金曜日に理事長を交えた会議はテーマを決めて職員の意見や提案を取り上げている。最近取り上げたテーマは『1年後の理想像』で、職員の意見を積極的に引き出している。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>産業医として、職員から話をききながら、労働環境および福利厚生の整備、調整に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修はもちろん、施設独自の評価表にて各個人の力量を把握するよう努めている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福島県グループホーム連絡協議会に加入し、毎月の研修会のほか、実践報告会に積極的に参加している。また、地域の同業者からもご協力をいただき、交流会等も行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前のアセスメントにはご本人とご家族の直接のご意見等を反映し、入居までに職員に周知している。また、入居後早期の段階で、ご本人の趣味や好きなものなどを再調査し把握して、生活の中に取り入れるよう努めている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご要望やご相談について、真摯に向き合い、良好な関係の構築がなされるよう努めている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じたサービス提供ができるよう、法人内の他サービス事業所や居宅等とも連携を図って支援している。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活歴等を踏まえ、施設生活の中に活かせる「協働」は進んで取り入れている。また、その中で職員がご利用者からご教示を得るなどしている。</p>			
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族との報告・連絡・相談を大切に、ご利用者の情報を共有して把握し、ご家族の意見を反映した支援ができるよう努めている。</p>			
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>市内の名所や、伝統行事にふれていただけるよう支援している。介護老人保健施設のご利用者や触れ合う機会も定期的に設けている。</p>	<p>入所時の実態調査で利用者の馴染みの人や場所、行動を把握し、年間行事の中に反映させ、出掛けている。また、併設する介護老人保健施設内に知り合いが多くいることから、触れあう機会を設けるなど馴染みの関係継続支援を行っている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>余暇活動としても、皆で参加できるレクリエーション等を取り入れているほか、ご家族のご協力を得ながら、できる限り協働して日常生活を営んでいただける様取り組んでいる。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>毎月発行する広報誌の送付や入院者への定期訪問を行っている。またお受けした相談についても対応し、積極的に継続支援している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご家族のご意見も取り入れながら、アセスメントして介護計画に反映し支援に繋げるよう努めている。</p>	<p>定期的に行われるカンファレンスで利用者からやりたいことなどの要望を聞き出し、応えるように努めている。</p>	<p>職員が更に利用者や家族の要望の聞き取りに努め、利用者の思いが反映することを期待したい。</p>
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前のアセスメントのほか、入居後早期の、及び日々の会話などからの情報収集にも努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>バイタルチェックなど、毎日ご利用者個々の状態を把握し、記録に残している。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族の意向はもちろん、その他主治医などの意見も踏まえながら、介護計画を作成している。</p>	<p>利用者や家族だけでなく、医療が必要な利用者については医師と相談しながらケアプランを作成するなど利用者の状況にあったサービスを行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々個別記録を記載している。また、状態の大きな変化等必要時は、ご本人とご家族の同意のもと、介護計画の変更につなげる。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>主治医や併設する介護老人保健施設の協力のもと、ご本人とご家族の希望・要望に照らし、必要時必要に応じた支援を提供できるよう取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の老人会や公民館の協力を得て地域住民との関わりをもつことで、入居者が地域住民であることを認識して生活できるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関はあるが、ご利用者やご家族が希望する医師・病院等を、第一の受診先として支援している。</p>	<p>受診は利用者の希望するかかりつけ医がほとんどで、家族対応を基本にしているが、出来ない場合には職員が対応して、結果を家族に電話報告するという適切な受診支援を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状況の変化は日々定時に申し送り、看護職のほか介護職もご利用者の体調管理に努めている。また、急激な体調の変化にも看護師が主治医と連携を図るなどして対応している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時はサマリーにて病院側との情報交換を必ず行う。また、入院中は定期的に面会や電話で心身の状況等を把握するようにしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時にご家族から希望を伺っている。またそのような状態になっても、指針を掲げ、主治医とご家族と連携しながら、できるだけ最期まで支援するよう努めている。</p>	<p>入所時に重度化や終末期での希望を取り、終末期に再確認を行うことで方針の共有化と支援を行っている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>介護老人保健施設とも連携し、勉強会を通じて実践できるよう学んでいる。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>最低年2回は消防訓練を実施している。またその際は消防署と地域消防団にも参加いただいたうえ評価していただき、更なる有事の対策の向上に努めている。</p>	<p>消防署や消防団の協力を得て避難訓練を行っている。夜間を想定して行い、利用者が車に乗る時間が早くなるなど地域と協力した避難体制が築かれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で取り上げているほか、常日頃から職員が互いにご利用者の誇りやプライバシーに配慮している。	日常的な支援を通じて利用者一人ひとりの尊厳を把握し、朝の読み合わせの機会に職員の中で情報の共有化を図り、利用者に対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の自己決定能力に応じた声掛けや選択の提示等を行い、なるべくご自身で決定していただくよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活歴や要望等を反映し、日々生活していただけるよう工夫、支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容・更衣について、方法や選択はご本人の意向を重んじ、職員はあくまで補助する立場として支援させていただいている。毎月行われる理美容についても、ご本人およびご家族のご希望に沿う。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好を取り入れた献立作りに心掛け、準備と片付けはご利用者と協働して行っている。また、職員が利用者様と一緒に食事を摂り、楽しく食事できるよう努めている。	献立は利用者の要望を入れて作成し、皮むきや茶碗洗いは能力に応じて利用者も協力し、楽しい食事となるように支援を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時には併設する老健の管理栄養士の助言等を踏まえ、ご利用者の栄養管理には留意している。また水分についてもこまめにご利用者に促すなど工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。これについては協力機関の歯科医師や併設する介護老人保健施設の言語聴覚士からも指導等をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを把握して、ご家族の協力のもと、排泄の支援に努めている。	見守りや声かけを綿密に行い自立支援を行っている。また、併設している老人介護保健施設のリハビリ担当者の協力を得て、リクリエーションを通じた利用者の残存能力の維持向上に取り組み、排泄自立の増進に繋げている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や軽い運動を取り入れ、自然な排便がなされるよう支援している。また、必要時は必ず主治医との連携を図っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	衛生面から最低限の入浴提供は不可欠ではあるが、その他入浴したい希望には沿うように努めている。また、入浴前のバイタルチェックはもちろん、会話しながら等できるだけ楽しい時間になるようあわせて努めている。	利用者の要望に応え、入浴時間を変更し、夕方や夕食後の入浴も可能となった。また、手すり位置の変更や滑り止めマットの敷設など利用者の安全面を考慮し、会話しながら入浴することで入浴が楽しみになるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じるよう支援している。また、活動の時間を設けて、夜間の安息を図れるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携して看護職員が管理責任を負うが、処方箋等の写しをご利用者毎のケースファイルに綴り、職員皆で個人の服薬の把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人らの希望および残存機能の維持・向上の目的から、役割を持って職員が協働するよう努めている。また、ご利用者個々の趣味についても支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、外での活動を支援しているほか、ご希望や季節に応じて、ご家族のご理解とご支援のもと、行事を提供している。	敷地内の畑や花壇の世話、洗濯、好天時の茶会など利用者の戸外に出る機会を増やし、また、月1回の外出先での交流会など年間通した外出を企画するなど外出支援を行っている。更に、家族の支援による外出も増えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>安心感、満足感、社会性の観点から、ご本人とご家族の状態や希望にもよるが、外出時などの必要時はこちらでご自分の財布からお支払いをしていただいている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族にも了承をいただき、電話の使用や手紙のやり取りを通じて、外部との関係維持を支援している。</p>			
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設は光を取り入れる設計になっていて、明るい生活環境の提供がなされるようになっている。また、食堂・談話室はカウンター式台所と隣り合わせで、調理の際の音や匂いを感じていただいている。</p>	<p>食堂をはじめとした共用空間には精神的暖かさを醸し出す木材をふんだんに使用し、利用者にとって居心地よい共用空間となっている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースには掘りごたつのスペースを設けていて、昔馴染みの場所を提供することでリラックスしながら、生活できるようにしてある。</p>			
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に、衣服を含む馴染みの生活用品をできるだけご準備いただくよう説明し、居室がご利用者にとって安心できるスペースになるよう、ご協力いただいている。</p>	<p>利用者は居室に自宅から生活用品を持ち込み、自分好みの空間にするなど、利用者や家族と相談して居心地よく過ごせる居室づくりの工夫を行っている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者の不安や混乱を防止するため、施設内の整理・整頓は常に心がけているほか、居室入口にその方が分かりやすいよう目印をするなどの工夫もしている。</p>			